

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	本研究科は修士課程のみの研究科で、授業は講義と演習形式で行われる(A4-3-1、A4-3-12)。 研究指導については、初年度は、指導を希望する教員と具体的な研究課題について緻密な打ち合わせを行い、先行研究を調査し研究課題を絞り込む作業を繰り返す。また、選択する講義科目については、文献検索・統計学等の情報系、専門周辺科目等を中心に必要科目を履修するよう助言し、修士論文の作成に必要な基礎理論と基礎技術を会得するよう、教育および学習指導を行っている(B4-3-6)。 また、本研究科では大学院生の研究課題の適切性を見極めるため、最終年度の年度初めに修士論文中間構想発表会を実施し、公開の場で主査・副査を中心とした質疑応答を経験させている(B4-3-17)。更に最終年度には「特別研究 AB」を選択させ、修士論文の課題研究および課題実験に必要な技術、専門的な理論の修得、修士論文執筆法、プレゼンテーション技術を指導教員が直接指導することによって修士論文発表および修士論文審査に対する準備が行われる。 各領域での毎年度の学会発表(B4-3-18)、本研究科の修了生の社会的な活躍に鑑みて、本研究科で行われている教育方法や学修指導は適切であると考えている。
4-3-2	スポーツ・健康科学研究科の授業は、全学統一の書式によって作成されたシラバスに基づいて行われている(A4-3-1、B4-3-19)。シラバスの記述に精粗がないように、事前に各授業担当教員に周知し、シラバスのチェックは分野ごとに教務委員が行っている。各授業の内容と方法はシラバスに沿って、適切に実施されている。
4-3-3	スポーツ・健康科学研究科の授業の成績評価と単位認定は、規程に従って適切に行われている(A4-3-13 第 13 条、A4-3-12 p.3～p.8)。シラバスに成績評価の方法・基準が明示され、学生は Web 上で検索し確認できる(A4-3-1)。教員は方法・基準に従って、厳格かつ適切に評価している。
4-3-4	スポーツ・健康科学研究科では、研究科 FD 委員会が主体となり、全学生が履修し全研究科教員が担当するオムニバス方式の共通科目「スポーツ・健康科学研究法」をサンプルとして、2012 年度と 2014 年度に独自のアンケート調査を実施した(B4-3-51)。 2014 年度の質問項目は、「この科目の受講生が授業にのぞむ姿勢や態度はどうか」「この授業で指示された課題の量はあなたにとってどうか」「教員の教材・資料の利用の仕方は効果的だったか」「研究科の理念、教育上の目的について」であり、回答はそれぞれ「よかった」が 87%、「ちょうど良かった」が 73%、「ある程度効果的であった」が 73%、「知っている」「何となく知っている」が 80%で、おおむね良好な結果が得られた。以上のアンケート調査は研究科委員会に報告し、大学院教育の改善につなげている。 授業改善のための研究会・研修会は、研究科独自の取り組みとして、2010 年度の「脳内における食欲調節研究の最前線」、2012 年度の「体力医学の研究の倫理と法」などが取り組み例である。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
-------	--

4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	本研究科のFD委員会において、授業内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究を計画し、教育成果を定期的に検証する責任主体・組織、権限、手続きを明確にする準備を開始すべきである。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-3-1	大東文化大学・大学院シラバス（CD-R） 大東文化大学ホームページ（Web シラバス） http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html ≪既出≫A4-2-16
A4-3-12	大学院履修要項スポーツ・健康科学研究科 2016 年度
A4-3-13	大東文化大学大学院学則 ≪既出≫A1-2
A4-3-14	2016（平成 28）年度 大学院の手引き
B4-3-6	研究計画書（書式）
B4-3-17	スポーツ・健康科学研究科 修士論文構想発表会の実施について
B4-3-18	スポーツ・健康科学研究科大学院生の所属学会発表件数、論文数、受賞等一覧
B4-3-19	2016 年度シラバス（授業計画）の作成依頼について
B4-3-51	2014 年度スポーツ・健康科学研究科における授業改善のためのアンケート集計表
B4-3-53	大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html ≪既出≫B1-16
B4-3-55	大学データ集 ≪既出≫B1-22
〔追加資料〕	

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-4 FD 委員会を中心に授業の内容 および方法の改善を図るための組織 的研修・研究を実施する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記 載される。	→		A		
	4-3-4 教育成果についての定期的な 検証の責任主体・組織、権限、手続き を明確にする。	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記 載される。	→		A		
14 年度 目標	4-3-4 本研究科 FD 委員会において、 授業内容および方法の改善を図るた めの組織的研修・研究を行う準備を 開始する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記 載される。	→	B			
	4-3-4 教育成果を定期的に検証する 責任主体・組織、権限、手続きを明確 にする準備を開始する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記 載される。	→	B			
15 年度 目標	4-3-4 本研究科 FD 委員会において、 授業内容および方法の改善を図るた めの組織的研修・研究を具体化する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記 載される。		B			
	4-3-4 教育成果を定期的に検証する	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ		B			

研究科

	責任主体・組織、権限、手続きを明確にする準備を開始する。	れるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。						
16 年度 目標	4・3・4 本研究科 FD 委員会において、 授業内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究を計画し実施する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。			A			
	4・3・4 教育成果を定期的に検証する 責任主体・組織、権限、手続きを明確にするシステムを構築する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学 研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。			A			